

 経営編	<h2>上海便り 2007年1月号</h2>
	<p>【情報提供】 【編集 / 提供】</p> <p>(株) 葵ビジネスコンサルタンツ</p> <p>東京本部: 横田税務会計事務所 〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156 URL: http://www.aoibc.com E-mail: aoi@aoibc.com</p>

中国果物について

中国: 上海の果物は、なんで美味しくないの？

上海で、中国で食べている果物が美味しくないと思っている方も多くいますので、その理由を専門家に聞いてみました。その原因は「早く金銭にしたいので、果物を未熟なうちに、出荷しているからだろう」と教えてくれました。

華南地区の工場に勤務していた日本人総経理の経験談からです。その工場にはマンゴウの木があって、毎年熟して、美味しそうになりますので、食べるのを楽しみにしていました。

でもモウ 2~3 週間で熟すると思われる時期に、必ず全てのマンゴウが毎年、採られてしまいましたので、一度も食べる事はできませんでした。そこで総経理が、ある年にまだ熟さない時期に美味しそうに数個のマンゴウに「**総経理用**」と札を貼り付けて『今年こそは賞味するぞ！』と毎日、毎日楽しみにしていました。

後 3 週間、後 2 週間と思いつつ例年ならば、この時には全てのマンゴウが採られていたのが、まだマンゴウは残っていると楽しみに見守り続けました。

後 1 週間、後 4 日間、そして「後 2 日間」で食べられると予想した、その翌日に出勤すると「総経理用」マンゴウも全く見えなくなっていました。

アドバイス

果物を未熟なままで出荷する理由は、「**他者に略奪される前に**」自分で採って食べたり、お金にしたりするためのようです

と言う事は、果物宝石と評価されている「高級サクランボ: 佐藤錦」が今年も山形県で大量に盗難にあったニュースが新聞や TV を賑わせました。数年すると中国と同じ状況になるのか、それとも日本的な解決方法として「見張り役ロボット」を作り、泥棒の監視を行わせるのでしょうか？

其の他の果物について、

日本に住んでいる方には残念で、可哀想な情報になりますが、上海のスーパーで販売している、美味しい『ハミ瓜』の価格はラクビーボール程度の大きさでも「約 200」日本円から売

っています。最初は物珍しく購入して食べていましたが、永く住むとモウ飽きてしまい買って食べる事も無くなりました。今では、料理店で最後に出るデザートとして食べる程度です。

そして、リンゴでは「美国」(アメリカ)や「オーストラリア」産のリンゴだと、1 山とか、1kgとかでスーパーでも販売していますが、日本産リンゴになると『1 個』の価格でデパート等の高級店舗で丁寧に包装されて販売されています。ミカンでも、桃でも、梨でも、工業品と同じく『Made in Japan』の果物は、高品質・高価格と見られているのでしょうか。上海に長く住んでいますとこの価格が大変気になります。1 桁多すぎるのではとか、間違っ「0:ゼロ」を多くしたのではと考えてしまいます。

桃についてですが面白い事に、中国:上海では扁平な【桃】を売っています。味は普通の桃と同じですが、形状は円盤型で平らになっています。最初は珍しがって、購入しましたがやはり桃はボール状の方が食べた気になります。

次に、イチゴやサクランボのように皮を剥かずに食べる果物についてです。これにも強烈な残留農薬の危険性もありますので、注意が必要になります。この農薬問題については、日本に住んでいる人の方が詳細に知っているようです。(F記)

【誤差は「0:ゼロ」です ??? ?】

業界が違くと発想が変わってきました。

日本の労働省関連で(財)海外職業訓練協会【OVTA】と言う海外進出への相談・セミナー業務やコンサル業務を実施している機関が有ります。

この度、OVTA に登録している東京事務所の国際アドバイザーを中心にして、自主的な『中国』グループを作り、中国の情報交換や相互の業務支援・勉強会の開催を行いたいと考えていました。06 年 12 月中旬に最終的な意見の打ち合わせで代表者:3 名が集まりました。その打合せ終了後に、いつものように居酒屋へ慰労ですが、その時の会話をご紹介します。(OVTA-China のメンバーはその道の専門家であり、尚且つ中国に関しても知識を有している人々です)

代表者の 3 名は、建設・レンズ製造・会計の専門家です。最初は、誤差がどうなっているかとの会話から始まりました。「うちの業界だと【mm】までなら OK です」と建設専門家から、次に「うちの業界だと【ミクロン】単位までです」とレンズ製造専門家から、そして、最後に会計業界からは「誤差は【0:ゼロ】です」「許されません！」との発言が出ました。

ここで、「誤差」を『遊び』と考えみると誤差が【0:ゼロ】の場合は、車のハンドルで遊びが無いような状況になって、逆効果で大きな問題が発生するでしょう。故に、各業界で誤差の【許容範囲】が違っていると考えられます。許容範囲に関しては、製造業では『公差』になり、逆に最小の必要とされる範囲の数字になります。

振り返ってみると、中国系メーカーで多いと言われている「不良品」に関しては、【誤差の許容範囲】の相違だと推測されますし、「信用」や「信頼」に関しても【誤差の許容範囲】の相

違だとも判断されます。

アドバイス

誤差の許容範囲を正確に、明確に規定して、その理由も教える。

: 検品になると検品実施者が判るようにして、責任を持たせる制度を構築する。そして、工場のレベルを向上させる

(F記)

AOI
Group

法律・税
務・会計編

上海便り 2007年1月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com>

E-mail: aoi@aoibc.com

不動産市場における外国為替管理の規範化についての通知

2006年9月1日日付で中国国家外国為替管理局と建設部連名で《不動産市場における外国為替管理の規範化についての通知》として公布され、9月1日から施行されることになりました。

当該通知の主な内容は、次のとおりです。

- ① 国外の機構が中国国内に設立した分支機構及び代表機構、外国の個人及び香港・マカオ・台湾の住民と華僑が法律に基づいて住宅を購入、譲渡する場合、関係する書類を外貨指定銀行に提供し、その真実性を審査により確認してはじめて、相応の「**人民元の転・外貨転**」手続きを開始できます。

* **人民元の転・外貨転** = 不動産購入のため、外貨を人民元に両替し、不動産開発企業の口座に入金する手続きになります。

- ② 外商投資不動産企業の登録資本金がまだ全額払い込まれていない場合、又は、開発プロジェクトの資本金が総投資額の35%に達していない場合、国外から外債の借入れを認めず、外国為替管理局は外債登記及び外債の人民元両替の承認手続きを開始しない。

- ③ 国外の機構及び個人が持分譲渡及びその他の方式を通じて中国国内の不動産企業を買収する際に、下記の状況では外国為替管理局は**相応の**外資外国為替登記の手続

きを開始しない。

- ・ 自己保有資金にて譲渡金の全額を一括で支払うことができない場合
- ・ 外商投資不動産企業での中国籍投資者か、外国籍投資者のいずれか一方が、当事者として**固定利益**又は他の形式を通じての**固定利益**の保障を約定している場合

* **固定利益**は、中国語で[固定回報]=固定利益とは、投資者たちに対して会社の経営状況を問わずに、事前に約束した利益を配分する事になります。

* **相応の**=「一定の」に意味で、未確定です。

- ④ 国外の機構及び個人が国内の銀行に開設した外国投資者専用の外国為替口座内の資金は、不動産開発及びその経営への使用を認めない。

弁護士：程 甦 (テイ ソ) 記
(株) 葵ビジネスコンサルタンツ:特別顧問

上海光明弁護士事務所 (有)
1990年 中国弁護士資格取得
2000年 日本外国法事務弁護士資格取得
得意分野:会社法・投資法・知的財産権
TEL:021-2281-9140(日本語直通)

AOI
Group

経営編

上海便り 2007年2月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部:横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

今月から「OVTA-China」のメンバー「樺島:カバシマ」さんに、面白い、ハットする文章を書いていただきました。

【性善か、性悪か】

日本人の海外旅行は 1980 年代後半からのバブル景気で更に増幅され、低成長時代に入っても海外旅行ブームは衰えず、世界の津々浦々で老若男女を問わず日本人観光客を見掛るようになった。SARS や米国の 9.11 テロで一時期落ち込んだ海外旅行も、2005 年の出国人数は 1740 万人を突破、これから数年は団塊世代の退職を迎え、海外旅行に一層拍車がかかるであろう。一方海外からの観光客も 2005 年の訪日外国人は過去最高の 673 万人を記録し、観光地も従来の京都や奈良、日光や鎌倉などの名所旧跡から、北海道の雪祭りやスキー場、日本の温泉めぐりなどの新しい観光資源が外国人を惹きつけている。

経済面では、廉価な労働力や海外市場を求めて、日本企業の海外進出が一段と進み、産業の空洞化が進みつつある一方、バブル崩壊後は外資ファンドが日本の証券市場に進出し、また M&A で日本企業の買収も始まっている。

このように日本の国際化が深化するにつれて、日本人の意識のなかに「日本の常識は世界で通用しない」といった認識が、じょじょに浸透しつつあるように思う。しかし、日本人の潜在意識のなかに、世界に通用する常識がまだ定着していないのも事実である。

わたしは旧満州国(現在の中国東北地方)生まれの中国育ちで、敗戦後父が中国共産党軍に医者として留用(残留させて技術を利用すること)を命じられたことで、戦後十年間家族とともに中国各地を転々と移動した。その間中国人の学校に通い、中国人とともに生活してきた時期がある。

17 歳で日本に引き揚げ、高校・大学は日本の教育を受け、就職してからは日本の企業戦士として訓練を受けた。感受性の強い血気盛んな青少年期に、中国と日本で生活し教育を受けたため、絶えず中国人的発想と日本人的発想の狭間で苦悩してきた。

結婚してしばらくしてから家内に「わたしは国際結婚したような感じがする」と、ふたりの発想の違いを指摘された。その発想の違いとは、中国人の発想の原点の一つである「性悪説」と日本人の「性善説」にあると、かなりあとになってから気づいた。

それでは先ず「性善説」と「性悪説」につき簡単にご紹介しよう。

「性善説」とは孟子(BC372～289)が著した「孟子」の「告子章句上」による。

孟子曰く、「人性之善也、猶水之就下也。人無有不善、水無有不下。(中略)

ひとのせいぜんをなさんむべきは、そのせいまたなほかくのごとくはなり
人之可使為不善、其性亦猶是也。」(説明訳文:人本来の性質が善であるのは、水が下に流れるのと同じようなものだ。人が善でないことは無く、水が下に流れないことは無い。人が不善な行為をし得るのは、人本来の性質も水のそれと同じく、外部の影響を受けるからである)

その孟子の説に異を唱えたのが「性悪説」で、荀況(BC298～235)が著した「荀子」の「性悪篇第二十六」による。

「人之性悪。其善者偽也。」(人の本来の性質は悪である。それが善である者は、人為の結果である)に始まるこの章は実に含蓄がある。少し長いが、説明訳文のみをつけておこう。(人本来の性質は、生まれながらにして利を好むもので、このままにすると、争奪が生じて、遠慮がなくなる。人本来の性質は、生まれながらにして憎悪の心があるもので、このままにすると、他人に危害を加えるような行為をし、まごころや誠実さが失われる。人本来の性質は、生まれながらにして美しいものを見たい、聞きたいという欲望、音楽や女色を好む傾向がある。このままにすると、人の道を外れた行為が横行し、礼や義や条理が消滅する。これらのことが正しいとするならば、人本来の性質に従い感情の趣くままに行動すると、必ず争奪が生じ、条理が犯されて乱れ、秩序が崩壊することになる。だから必ず正しい導き手、礼と義による感化があつて、その後初めて遠慮の心が生まれ、条理に合致し、世の中が治まる。以上のことから考えると、人の本来の性質が悪であるのは明らかである。それが善である者は、人為の結果、そうなったのである)

孟子の「性善説」も荀子の「性悪説」も人の本性を善と悪の両面からとらえたもので、表裏一体のものである。要はなぜ礼節や信義を以って教育しなければならないかを説いたものである。同じ儒教の教えでありながら、なぜ本家の中国では「性悪説」が残り、日本では「性善説」が定着したのだろうか。その理由は、日本が海で隔絶された単一民族に近い国家であり、長年神仏共生の影響で内部融和、相互信頼、相互扶助が重んじられたことによるのではなかろうかと私は思う。

ここで中国と日本の違いについて、二つほど具体例を挙げてみよう。

【病院での支払い】

◆ 中国の場合、治療費の取りそこないを避けるため、初診、再診、入院を問わずすべて現金の前金制である。医は仁術というが、中国ではすべてが金銭至上主義である。北京駐在時代のある日の未明、わたしは原因不明の高熱と悪寒に襲われ、取り急ぎ手許の現金 2,000 元(約3万円)を持ちひとりでタクシーに乗り中日友好医院の緊急外来に駆け込んだ。40 度近い高熱でふらふらしながらも、自分で診察料を支払い内科当直医の診察を受けた。医者より血液検査の結果白血球が多いので、入院して精密検査

をする必要があると診断された。早朝 8 時を待って入院窓口へ行くと、保証金として現金1万円を今すぐ納付せよとのこと。手許に現金は 2,000 元しかないと告げると、それでは入院手続きはできないとの一点張り。クレジットカードを提示して、それで1万円を支払い、ようやく入院手続きを終えた。

最近北京や上海等の大都市では、損保会社と契約すればキャッシュレスで医療行為を受けられるようになったが、地方都市ではこの方式はまだ通用していない。

- ◆ 日本の場合、外来受付窓口健康保険証さえ提示すれば、初診、再診を問わず診療してもらえ。診療が終わって初めて会計窓口で支払うことになる。薬は最近医薬分業になったので、処方箋を外部の薬局に提示し薬を購入する。入院の場合でも、一般的に前金を要求されることは稀である。これは日本の病院システム自体が患者を信用することを前提にしているためである。即ち、人は善であるとの発想から出ている。ところが日本社会にも変化が起こり、最近治療費未収が多発しているようだ。2005 年 3 月 7 日付の日本経済新聞によると、入院ベッド数 500 床以上の大病院で、1病院当りの入院患者の平均年間未収治療費が5,000 万円以上になっていると報じている。患者の不払いが増えた原因として、二つの理由を挙げている。

- ・ その一つは、所得の目減りで治療費が払えない。
- ・ 二つ目は、患者の意識の変化である。

この中には在留外国人の増加もその一因であるようだ。

【デパートでの支払い】

- 中国では、売り場店員は購入品の伝票を書くだけで、お客はその伝票をキャッシャーに持参して支払いを済ませ、支払い済み捺印の伝票を売り場に持ち帰り、購入品を受け取るシステムになっている。それは売り場店員の不正を回避するためにとられた措置である。

- 日本では、お客が購入品を決めたら売り場店員に直接現金かクレジットカードを渡すのが一般的である。クレジットカードが裏でどのように処理されているか、お客はあまり気にしていない。それはデパートというところを信用しているからである。しかし最近一流ホテルのレストランでもカードのスキミングが発生して、「信用」が崩れつつある。

一概に外来文化の影響とはいいたくないが、最近の企業文化の変化を見るにつけ、日本企業における「性善説」に立脚したこれまでの企業倫理が崩れつつあるように思う。また最近の企業トップの倫理欠如の具体例は枚挙に暇がない。

企業の顧客情報漏洩では、ソフトバンク BB で事件が発生した。孫正義社長は「性悪説」という表現で、再発防止策を講じた。情報管理を一箇所に集約し、ガラス張りのオフィスに監視カメラ、入退室の金属探知機などを設置したと新聞は報じている。その後、氷山の一角かも知れないが、通販のジャパネットたかた、コスモ石油、日本信販などが相継いで大規模な顧客情報漏洩事件を引き起こしている。

特許の開発者に対する対価については、青色発光ダイオード(LED)の開発者中村修二氏が日亜化学工業在職中にもらった僅かな報奨金を不服として、退職後同社を相手取り特許対価 200 億円の訴訟を起こした。4年間の係争後、2005 年 1 月両者の和解が成立し、約

8億4000万円で決着した。

この青色発光ダイオード訴訟を契機に、オリンパス光学(ピックアップ装置)、味の素(人口甘味料)、日立製作所(光ディスク読み取り)、三菱電機(携帯電話フラッシュメモリー)などの企業で、発明者から発明した特許に対する対価要求の訴訟が持ち上がった。従業員がその企業を相手取り特許開発の対価を要求する訴訟を起こすとは想定していなかった企業側も、職務発明に対する取り扱いを真剣に検討している。

また多くの「企業不祥事」が内部告発によって明らかになっている。例えば、原子力発電や関西電力の「記録改ざん」、日本ハムや雪印乳業の「偽装」、三菱自動車の「リコール隠し」などが挙げられる。最近では不二家の例が話題になっている。警察内部の公費乱用の告発も起こっている。内部告発者を保護する法律「公益通報者保護法」がようやく内閣府で政令案が策定され、2006年4月から施行された。しかし、日本の企業文化として内部告発はなじめないのではなかろうか。

また一般社会でも政治家への贈収賄、公務員の汚職、教職員の性的不正行為、学校におけるいじめ、家庭内暴力など、すべて「性善説」が崩れつつある証ではなかろうか。

このような世の中であるからこそ、日本人独特の「善」を好むところを、これからも尚一層大切にしてもらいたいが、国際化の進展にともない、今後は「性悪説」に立って物事に対処する心構えも必要ではなかろうか。

(樺島 康介:記)

樺島 康介 (財)海外職業訓練協会 国際アドバイザー:No.857

中国会計制度における「棚卸資産」の取り扱いについて

中国会計制度における「棚卸資産」の扱いは、基本的には日本におけるそれと同じであると考えられるが具体的な会計処理になると、とたんに日本における会計処理方法と異なった形となり、日本の会計担当者の頭を悩ますものとなっているのが現実です。そこで本稿ではその原因を探るべく実務を中心に検証してみることとする。

棚卸資産とは

1. 棚卸資産の意義

棚卸資産とは商品、製品、半製品、仕掛品、原材料、貯蔵品等をいいこれは日本と同様である。

2. 棚卸資産の取得価額

棚卸資産の取得価額は原則として、その資産の購入代価、取得又は販売の用に供するために直接要した費用の合計額であり、これには付随費用もふくむものとされている。

また自社製造にかかる製品、半製品、仕掛品等の原価は、材料費、労務費、製造経費からなるものとされ、この点も日本と同じと考えてよい。

3. 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の評価はその種類、品質、型の異なるごとにおこない、原価法が原則となっている。外資企業所得税法では原価法には次のような評価方法が認められている。

・先入先出法 ・後入先出法 ・総平均法 ・移動平均法
但し一度採用した評価方法は、みだりに変更することはできない。

実地棚卸会計処理

1) 実地棚卸

棚卸資産については、定期的に実地棚卸を実施しなければならない。実地棚卸と帳簿記録とが一致しない場合には、決算においてその原因を調

査し合理的な処理を行わなければならない。棚卸し減耗損及び増加益は関連費用と調整することとなっている。

なお異常な原因による減耗損は営業外支出に計上される。但しこの点において税務当局の承認が必要となる。

2) 棚卸資産評価損

「中国企業会計準則」では、棚卸資産の陳腐化等による評価損は「棚卸資産評価引当金」として計上しなければならないとされているが、「外資企業所得税法」はこれを原則として認めていないが、「カビによる変質等」特別な場合は税務当局の承認の下に卸資産廃棄損失としてこれを認めているようである。

3) 仕掛品の評価方法

仕掛品は正式には製造業における原価計算により導きだされるものであるが、実際原価、標準原価、工程別原価など日本の原価計算基準による計算方法はほとんど認められている。即ち理論的にその計算値が説明できれば承認されるものと思われる。

原価の計算実務

A製品とB製品を製造販売しているメーカーの売上原価の仕訳処理の実際

1. 日次処理

各費目ごとに仕訳をする。

原材料B/S	現金B/S	5,000
労務費(B/S)	現金B/S	4,000
光熱費(B/S)	現金B/S	1,000
減価償却費(B/S)	減価償却累計B/S	3,000
		月次合計 13,000

2. 月次決算処理

各製品ごとに製造原価に振り替える

製造原価(B/S)	原材料B/S	2,000
製造原価(B/S)	労務費(B/S)	4,000
製造原価(B/S)	光熱費(B/S)	1,000
製造原価(B/S)	減価償却費(B/S)	3,000
		月次合計 10,000

各製品へ振り替える

A製品B/S	製造原価(B/S)	7,000
B製品B/S	製造原価(B/S)	3,000
		月額合計 10,000

以上のような仕訳処理を行う結果、月次試算表において労務費、製造費用等は

全て製品に振り替えられる。また材料はその製品に使用した分だけB/Sから製品に振り替える会計処理方式とり、日本における会計処理方式と大きく異なるものとなり、故に中国会計には【**原価計算書が無い**】と云われることになるようである。

(横田 昭夫：記)

AOI
Group
経営編

上海便り 2007年3月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

【中国で大活躍の「和製漢語」】

先日蔵書を整理していて、古い書棚の片隅に埃を被って押し込まれていた手垢のついた赤い表紙の小冊子を発見した。1960年代から日中関係の仕事に携わってきた者にとっては、喜怒哀楽の交錯した懐かしい小冊子の「毛主席語録」である。

この小冊子は本来国防大臣の林彪元帥が人民解放軍将兵の必読書として、毛沢東主席の著作や講演の中から短文を抜粋して、バイブルのように一冊にまとめさせたものである。それが1966年から中国全土を席卷した文化大革命の中で、中国人民が右手に高々と掲げたあの必携の「紅宝書」である。我々日本人も「文革期間」香港経由で一旦中国国境の深圳橋を渡ると、香港へ戻るまでこの赤冊子を肌身離さず持ち歩いたものだ。

小冊子の第一章「共産党」の冒頭の一文「領導我們事業的核心力量是中國共產黨。指導我們思想的理論基礎是馬克思列寧主義」(訳文:我々の事業を導く核心的力は中国共産党である。我々の思想を指導する理論的基礎はマルクス・レーニン主義である)の中で、下線の単語は「和製漢語」である。

例に挙げた下線の単語だけを見ても、皮肉なことに毛沢東主席は和製漢語を用いて思考し、文章を書き、演説していたことになる。和製漢語が中国人にとって如何に大切かがわかる。仮に中国が和製漢語を導入していなければ、どんな漢語の表現を用いだろうか。

中国人自身これらの単語が漢字で表記され、しかも使い慣れているので、和製漢語と知って使っている人はほとんどいない。民族意識に燃える中国の若者たちがその事実を知っても、「日貨排斥」のように「日語排斥」運動は起こさないだろう。

我々日本人も漢語の単語はすべて中国大陸から導入したものだと思い込んでいる。今こそ明治の先達の開発した和製漢語を大いに誇りたいものである。

そもそも「和製漢語」という名称は「和製英語」に対応した造語で、「和製英語」はご存知のようにすべてカタカナ表記である。例えば、オートバイ(motorcycle)、サラリーマン(businessman)、デパート(department store)のように、本家の英国や米国では通用しないのに対して、和製漢語は「毛主席語録」の引用例のように、本家中国でも堂々とその位置を占め、今や和製漢語を使わなければ、中国語として十分な表現ができないほどになっている。

中国における和製漢語研究の第一人者—王彬彬氏の論文【現代漢語の中の日本語「外来語」問題】によると、中国語の中で日本語から導入した外来語の数は驚くほど多く、統計によれば、社会科学、人文科学などの用語の凡そ7割は日本語の訳語を導入したものである。それらはすべて日本人が明治維新以降西洋の語彙を翻訳したものを、中国がそのまま導入し定着させたものであるとのこと。

王彬彬氏はその論文の末尾を次の文章で締めくくっている。「最後に私が言いたいことは、我々が使っている西洋の概念は、基本的に日本人が我々に代わって翻訳してくれたものであり、中国と西洋の間には永遠に日本が介在している。」

中国でも西洋文明や先進文化を導入するに当り、独自の翻訳を試みた。例えば、具象名詞の「電話」を音訳して「徳律風」としたが、結局和製漢語の「電話」に取って代わられた。抽象名詞は中国人の性格から古典の中に適語を求めたが、大量の語彙を一挙に漢訳するには時間が必要だった。そこで日本に遅れをとった清朝は、日本の訳語をそのまま導入した。

一方日本は明治維新により中国大陸文化の束縛から解き放たれて、自由な発想で翻訳したことが多くの優れた和製漢語を作り出したといえる。勿論中国の造語法に則り新しい語彙を造ったので、中国人にも違和感はなかった筈だ。

中国は和製漢語をすべて導入した訳ではない。例えば、自転車—自行車、自動車—汽車、汽車—火車、蓄音機—留声機、呼鈴—電鈴、硝子—玻璃のように独自の訳語も多い。またラジオ、アイロン、グラスのような和製英語は收音機、電熨斗、玻璃杯のように漢訳されている。戦後日本はカタカナ表記の外来語が氾濫しているが、残念ながら中国には日本のような仮名がないため、導入すべき外来語は一般的に中国語に意識か音訳するしかない。例えば、テレビ—電視、コンピューター—電腦、ビデオ—録像機、ソフトウェア—軟件、ホットドッグ—熱狗、ミニスカート—迷你裙、マイクロバス—面包車のように漢訳されている。日本で話題を集めた「ライブドア」は「活力門」と意識され、これを中国語で発音すると「ホーリーメン」となり、「ホリエモン」に近く正に名訳である。最近では日本のスポーツ欄の用語に倣って完勝、惜敗、直撃、人気なども導入されている。

それでは戦前までに中国が導入した「和製漢語」にどんなものがあるのか、1982年中国で出版された「漢字外来語詞典」に収録された896語の中から、ごく一部代表的なものを紹介する。

ア行	医学、意義、遺伝、印象、右翼、演説、
カ行	概念、会談、会話、解放、科学、活躍、関係、幹部、観点、間接、企業、基準、義務、客観、協会、共産主義、業務、緊張、軍国主義、警察、景気、経済、芸術、権威、権限、原則、原理、現実、公民、講演、工業、国際、階級、気質、規則、記録、教授、共和、具体、計画、現象、憲法、交通、綱領、交換、克服、
サ行	最恵国、債権、雑誌、時間、刺激、市場、指導、支配、実権、実業、質量、資本家、資料、社会主義、宗教、集団、重点、重工業、主観、出発点、消費、商業、情報、承認、信号、信託、成分、制限、政策、政党、性能、積極、絶対、総合、総理、速度、左翼、主義、侵略、生産、自由、節約、信用、思想、資本、社会、消極、

	条件、世紀、精神、組織、素質
タ行	体育、体操、大局、代表、対象、立場、単位、抽象、直接、通貨収縮、通貨膨張、哲学、電子、電波、電報、電流、電話、伝染病、展覧会、手続、取消、動員、投資、独裁、特権、投機、知識、登記、
ナ行	内容、任命、日程、年度、能率、能力
ハ行	背景、覇権、派遣、反響、反応、広場、美術、否定、服務、本質、発明、反対、分配、分析、保障、悲観、物理、文化、文学、文明、法則、法律、保険、方針
マ行	無産階級、目的、目標、身分、民主
ヤ行	唯心論、唯物論、輸出入、要素、予算
ラ行	理想、理念、了解、領海、領空、領土、倫理、冷戦、論壇、論理学、理性、理論

【参考文献】 現代漢語中的日語「外来語」問題(王彬彬著)

(樺島 康介:記)

樺島 康介

(財)海外職業訓練協会

国際アドバイザー:No.857

OVTA-China メンバー

AOI
Group
経営編

上海便り 2007年4月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

【日本語と中国語の「同形異義語」】

文字を持たなかったわれわれ日本人の祖先は、紀元3世紀ころに日本語に漢字と漢文を取り入れました。それ以降日本は朝鮮半島やベトナムと同様に漢字文化圏に取り込まれてしまいました。

ベトナムは19世紀後半フランスの統治下に置かれ、植民地支配となりました。フランスは植民地政策の一環として、先ずベトナムを中華文化圏から離脱させるために、それまでの漢字表記をカトリック宣教師が考案したアルファベット表記(クオクゲー、国語)に変更させ、漢字から脱却させました。表記は変更されたものの、ベトナム語の中には漢語から取り入れた単語がいまだに70%以上残っているそうです。

朝鮮半島は15世紀半ばの李氏朝鮮王朝時代に、ハングル文字を作りましたが、第二次大戦が終結するまでは日本と同様に漢字とハングルを併用した表記方法を採用していました。戦後に朝鮮民族の独立意識の具体的表現として、韓国も北朝鮮もハングル表記に統一することでようやく漢字から脱却できました。

ところがわが日本は漢字にこだわり、漢字文化圏から脱却できず現在に至っています。われわれ日本人は漢字表記に馴染み過ぎたせい、『漢字で表記された中国語を見ると何となく理解できる』と錯覚する人が少なくありません。

しかし中国語を勉強すればするほど、中国語と日本語が同じ漢字表記であっても、その発展過程で違った意味をもつ単語が多く存在することに気付くでしょう。しかも幕末に始まり明治維新以降も日本が西欧の先進文明文化を取り入れる中で、日本独自の「和製漢語」を大量に作ったことが、「同形異義語」を更に多く発生させた一つの原因でもあります。

一例を挙げると、中国語の「告訴」には日本語で使う法律用語の「告訴」という意味はなく、単に相手に告げる、伝えるといった意味しかありません。そこで「我告訴他了」(私は彼に伝えた)という中国語の短文を、(私は彼を告訴した)と日本語に翻訳したら、大変な誤解を招くことになります。

このような「同形異義語」をできるだけ多く紹介し、それにより皆様に不必要な誤解を避けていただければ幸いです。以下各項のタイトルは、左側が日本語、右側が中国語とその発音、日本語の意味です。

一. 愛人…「愛人(アイレン)」: 夫や妻

中国共産党が1921年に創立してから、ソ連のコミンテルンの指導を受けた関係で、ソ連の真似をして男女の区別なく互いに「同志」と呼び合い、既婚者は自分の相手を人に紹介する場合「愛人」と呼ぶようになりました。それが1949年の新中国建国後は一般庶民にもモダンな響きをもって広まりました。

「愛人」にまつわる次のような笑い話があります。1960年代初めのころ、春秋二回の広州交易会に参加した日本商社マンに、中国側貿易公司(会社)の幹部が同席していた女性担当者を「這是我的愛人」(これは私の家内です)と紹介したそうです。それを未熟な中国側通訳(外国語学院の学生)が「これは私の愛人です」と訳してしまいました。その紹介を聞いた日本人は、さすが社会主義国だけあって、自分の「愛人」まで堂々と紹介するほど開放的なのだと感心したそうです。

日本人が使う「愛人」は中国語で、そのものずばりの表現の「情夫」(チンフ)と「情婦」(チンフ)です。対外開放政策が一層深化した1990年代になって、多くの政府高官、大手企業のトップ、ITや不動産の成金族(中国では「暴発戸」という)などが、建国前まで続いた封建時代の中国伝統風習を真似て、こっそり妾(「姨太太」(イータイタイ))、「小老婆」(シヤオラオポ)を囲うようになりました。一般庶民も経済的ゆとりが出来ると、夫婦共働きということもあり、「他有了外遇」(彼に愛人ができた)という風潮も現れてきました。

それでは現在中国で「夫」や「妻」はそれぞれどのように呼ばれているのでしょうか。勿論中国人同志では「主人」も「家内」も通常「愛人」を使っていますが、第三者に対して畏まって「妻」が「夫」を指す場合、「我的先生(ウォーダ シエヌション)」、「我的丈夫(ウォーダ ジャンフ)」のように使うし、同様に夫が「妻」を指す場合、「我的夫人(ウォーダ フーレヌ)」、「我的妻子(ウォーダ チーズ)」のように使います。「妻」に対する呼称には、老婆でなくても「老婆(ラオポ)」と言い、中高年層は「老伴兒(ラオバル)」(連れ合い)と言い、一般庶民は「媳婦(シーフ)」と呼んでいます。

中国では一般的に夫婦間は互いに名前を呼び合っていますが、隣近所の親しい人たちには「うちのお父さん」とか「うちのお母さん」のように自分の旦那や女房を指す場合、子どもを介在させて「孩子他爸(爹)」(子どものお父さん)、「孩子他媽」(子どものお母さん)のように表現します。

「愛人」と紹介された古女房 柳絮

二. 丈夫……「丈夫(ジャンフ)」:夫 大丈夫……「大丈夫(ダージャンフ)」:男の中の男

日本語の「丈夫」を(じょうぶ)と読むと、男子の美称で「偉丈夫」(いじょうぶ)のように心身ともに優れた男、「ますらお」の意味ですが、(じょうぶ)と読むと、「丈夫な身体(健康な身体)」、「丈夫な家(頑丈な家)」のような意味になります。

中国語の「丈夫」の「夫」の発音を1声でと読むと成年男子の意味で、日本語の丈夫(じょうぶ)はここから来ています。それが転じて漢字の「夫」の発音を轻声でと読むと、「夫」(おつと)になります。前項で述べたように妻が自分の夫を指すとき、「他是我的丈夫」(彼は私の主人です)のように表現します。

さて、「丈夫」に「大」をつけて「大丈夫」にすると、中国語では「男の中の男」、「一人前の男」の意味になり、日本語でも「大丈夫」(だいじょうぶ)と読むと、中国語と同じ「ますらお」の意味になります。

しかし日本語のこの「大丈夫」(だいじょうふ)は死語になりつつあり、今では「大丈夫」(だいじょうぶ)の堅牢である、間違いないなどが一般的に使われています。「この建物は地震が来ても大丈夫だ」とか「この水は飲んでも大丈夫だ」のように使います。因みに日本語の大丈夫(だいじょうぶ)は、中国語では「不要緊(ブヤオジン)」、「没问题(メイウエヌティー)」、「没什么(メイシェヌマ)」などを使います。

中国語の「大丈夫」と同義語に「好漢(ハオハヌ)」や「男子漢(ナヌズーハヌ)」があります。日本の諺に「日光を見ずして結構と言うなかれ」がありますが、これと同じように中国語にも「不到長城非好漢(ブダオ チャンチョン フェイ ハオハヌ)(長城に到らざれば、好漢にあらず)」という諺があります。これは最終目的地に到達しなければ「好漢」(立派な男)と言えないという意味です。

わが「丈夫」古稀を過ぎてもなお丈夫 柳絮

三. 約束……「約束(ユエシユ)」:拘束、束縛

数年前NHKが放映した韓国ドラマ「冬のソナタ」(裴勇俊:ペ・ヨンジュン、崔智友:チェ・ジウ主演)が契機となり、最近ではやや下火になってきたものの、それでも NHK、民放ともに競って韓国ドラマを放映しています。

韓国の若い男女は相手に「約束」を強要するのか、特に男に自信がないのか相手の女性に対して、日本語に近い発音の「約束」を執拗に口にしています。ドラマの中のこのようなシーンを見てみると、韓国語の「約束」には相手を束縛する意味が含まれているのではないかとさえ思えます。

さて、中国語の「約束」には拘束する、束縛する、制限する、制約する、取り締まるなどの意味しかなく、日本語の「約束」がもつ(取決め)や(規定)などの意味はありません。

それでは日本語の「約束」を中国語でどう表現するかというと、中国語の「約(ユエ)」1字に日本語の「約束」の意味がありますが、ただ中国語では一般的に漢字1字では不安定なので、一つの単語を2字以上で表現します。

それが「約好(ユエハオ)」=「約束する」、「約定(ユエディヌ)」=「約束する」、「约会(ユエホイ)」=「会うことを約束する」などとなります。

その「約」をどうするかにより、次のような単語になります。

日本語	中国語
約束を守る	守約(ショウ ユエ)
約束を果たす	践約(ジエヌ ユエ)
約束に背く	違約(ウェイ ユエ)
約束を破る	失約(シー ユエ)
約束を取り決める	定約(ディヌ ユエ)

日本語に「約束」を使った「約束手形」や「約束事」などがありますが、「約束手形」は「期票(チーピャオ)」、「約束事」は「約好的規定(ユエハオ ダ グイディヌ)」或いは「縁分(ユェヌフェヌ)」となります。また「前世の約束」は「前世注定的命運(チェヌシー ジューディヌ ダ ミンユイヌ)」と訳します。

約束を無理強いするのが「約束」か 柳絮

四. 心中……「心中(シンジョン)」:心の中

日本語の「心中」には(しんちゅう)と(しんじゅう)の二つの読み方があります。ご存知のように「心中(しんちゅう)」は読んで字の如く「心の中」、「胸のうち」の意味です。中国語の「心中」には日本語のこの「心中(しんちゅう)」の意味しかありません。

そこで日本語の用例を中国語に翻訳すると次のようになります。

- * 「心中ひそかに笑う」=「心中暗笑(シヌジョン アヌシャオ)」
- * 「心中を明かす」=「傾吐心事(チヌトウー シヌスー)」
- * 「心中穏やかでない」=「心中不平静(シヌジョン ブ ピンジン)」

中国語の「心中」の用例として、「心中有数(シヌジョン ユウシュー)」は「事情をよく知っていて自信があること」の意味、その逆の「心中無数(シヌジョン ウーシュー)」は「事情がよく分からず自信がないこと」の意味です。

日本語にはもう一つ「心中(しんじゅう)」という読み方があり、通常「相思相愛の男女が一緒に自殺すること=情死」ですが、それが転じて「親子心中」、「一家心中」など一緒に死ぬことを表現するときにも使われます。また「会社と心中する」のように、(会社と運命を共にすること)や「彼に心中建てをする」のように(人との約束を守り通すこと)の意味にも使われます。

中国における「自殺」の例は枚挙に暇がありません。戦国時代の有名な故事として、楚国の政治家で憂国の詩人屈原(BC343～278年)が、秦国の謀略を見抜き楚の懐王を必死に諫めたが受け入れられず、楚国の将来に絶望して汨羅江(べきら江)に入水自殺しました。後に人々は屈原の無念を鎮めるために、彼の命日の旧暦5月5日(端午の日)に、粽(ちまき)を作り龍頭の船に乗って川に投げ込んだと言伝えがあります。これが後に端午の節句となり、またドラゴンレースの始まりであると言われています。文化大革命の時代は無実の罪に抗議して自殺する人がいましたし、最近では地方役人の圧政に反対して自殺をもって抗議する人がいます。

しかし中国には日本のように人を道連れにした「心中(しんじゅう)」事件はあまり聞かれませんが、最近外国文化の影響か「情死」する若い男女が現れています。決して多くないようです。そもそも中国人の倫理観や宗教観から「情死」という発想がないのかも知れません。

「^{シジン}心中」に考えあって心中す 柳絮

五. 怪我・・・「怪我(グアイウオー)」:私のせい

我々日本人にとって見慣れた日本語の標語「油断一秒・怪我一生」や「油断大敵」を、中国人が見ると全く違った意味に解釈するでしょう。

中国人がこの標語を見ると、先ず中国語に「油断」という単語はないが、「油」は油そのものであり、「断」には(切る、途絶える、断つ、判断する)の意味があります。そこで「断」は動詞だから、中国語では「断水」のように「断油」となり、ここでは(切らず、断つ)と解釈して「油を切らず」と理解するでしょう。ただこの「油断」は「涅槃経」の比喻に出てくる仏教用語であり、(不注意)という意味だそうです。

また、「怪我」の「怪(グアイ)」は中国語で(怪しい、疑う、妖怪、とても)のほか、動詞として(責める、とがめる、～のせいにする)の意味があります。「怪我」のように「怪」の後に人称代名詞などがくると、(そのせいである)とか(それを責める)とかの意味になります。従って、「油断一秒、怪我一生」の標語を中国人は「油を一秒切らせば、自分を一生責める」と解釈するでしょう。日本の工場の労務管理は相当厳しいと解釈するでしょう。

それでは、日本語の「油断」は中国語で「粗心大意(ツウーシヌ ダーイー)」や「麻痺大意(マーピー ダーイー)」といます。「怪我」の(傷)は「傷(シャン)」であり、(過失)は「過錯(グォーツォー)」や「過失(グォーシー)」といます。

ここで「傷」を使った中国語の用例をいくつか列記してみましょう。

- * 「出口傷人(チューコウ シャンレヌ)」=「毒舌を吐く」
- * 「別傷心(ビエ シャンシン)」=「悲しまないで」
- * 「傷風(シャンフォン)」=「風邪をひく」
- * 「傷感情(シャン ガヌチン)」=「仲たがいする」

さて、「油断」というと、堺屋太一氏の小説『油断』が時代を先取りして30年ほど前にベストセラーとして話題を呼びましたが、この『油断』は正に(石油を断たれる)ことをテーマにした小説です。

ある日、突然、石油が断たれ、そのほとんどを輸入に依存する日本はなすすべもなく崩壊してゆく姿を、赤裸々に描き出した衝撃の予測小説であり、原油高、テロ、自然災害が相次ぐ昨今、30年ぶりに甦った警世の書です。日本が「油断」していると、中国との資源争奪戦に負ける恐れがあります。

2005年12月に日本経済新聞社から復刊されましたので、ご興味のある方は図書館でも目を通して見ては如何でしょうか。

(樺島 康介:記)

樺島 康介 (財)海外職業訓練協会 国際アドバイザー:No.857

【日本語と中国語の「同形異義語」②】

4月号に続きまして、同形異義語になります。

六. 看病……「看病(カヌビン)」: 診察する、診察を受ける

日本語の「看病」は(病人の看護、介護、介抱、面倒)の意味であり、「看護師が患者を看病する」、「嫁が姑の看病をする」のように使われます。「看病」は(看護)や(介護)とほぼ同義語であり、高齢化社会への対応に伴う「老人介護」、難病・奇病に伴う「病人看護」、癌など不治の病に伴う「終末期医療介護」など、最近わが国の社会福祉政策は老人、病人のような弱者に対して益々厳しい状況になりつつあります。

中国語の「看病」には次の二つの意味があります。その一つは(医者が診察する、治療すること)、もう一つは(患者が診察を受ける)ことです。その例として、前者は「大夫給病人看病(ダイフ ゲイ ビンレヌ カヌビン)」=「医者が病人を診察する」、後者は「我到医院看病去(ウォー ダオ イーユアヌ カヌビン チュイ)」=「私は病院に診察を受けに行く」のようになります。

日本語の「看病」は(介護、介抱、面倒)の意味ですが、これを中国語では「護理(フーリー)」、「看護(カヌフー)」といいます。上に挙げた日本語の例を中国語に翻訳すると、「看護師が患者を看病する」=「護士護理病人」、「嫁が姑の看病をする」=「媳婦護理婆婆的病」となります。

欧米では「終末期医療」或いは「緩和医療」のホスピス(Hospice)体制が比較的完備していると聞きます。米国では基本的に在宅ホスピスが中心だそうで、医療機関と教会がタイアップして、終末期を迎えた患者とその家族に対して、肉体的・精神的苦痛を如何に和らげ、死を迎えるかに最大限の努力を費やしているそうです。

わが日本でもようやく「終末期医療」に目が向けられつつあり、医療機関のホスピス以外に、仏教系の法人組織が「ビハーラ(Vihara)」(梵語で僧院の休憩所)という意味の緩和ケア病棟を設けて、終末期を迎えた癌患者の介護に当たっているそうです。

七. 迷惑・・・「迷惑(ミーフォ)」:迷う戸惑う

日本語の「迷惑」は、そもそも仏教用語で、「迷」は(道に迷い)「惑」は(途方に暮れる)ことを表し、仏僧がさまざまな煩惱に迷い惑うという意味の言葉でありました。それが転じて今では「他人のことで煩わしいやな目にあうこと」や「じゃまをされて困ること」の意味に使われています。

日本語の「迷惑」は中国語で、「添麻煩(ティエヌ マーファヌ)」「打擾(ダーラオ)」「為難(ウェイナヌ)」などとなります。例えば(皆様にご迷惑をかけました)は「給你們添麻煩了」といい、(お邪魔します)は「打擾你了」といいます。

中国語の「迷惑(ミーフォ)」は、日本語で言う(迷う、惑う、戸惑う)の意味で、例えば「感到迷惑不解」=「何が何だか分からずに当惑する」のように使います。また、(惑わす)の意味もあり、「任何花言巧語也迷惑不了他」=「どんな甘言も彼を惑わすことはできない」のように使います。

外来語の漢訳には意識と音訳があります。音訳で意味をもたせた面白い訳語はたくさんあり、よく例に挙げられるのは、クラブ:倶楽部(ジュイローブ) コカコーラ:可口可樂、ベンツ:奔馳などです。最近の訳語で実に面白いのは、ライブドア(LIVEDOOR):活力門(ホーリーメヌ)で、この活力門の発音が「ホリエモン」に近いのです。また「迷惑」の「迷」を使ったものに、ミニスカート:迷你裙(ミーニーチュイヌ)があり、君を迷わすスカートの意味になります。何とも悩ましい訳語ではないでしょうか。

さて、「迷」を使った七言詩の一節に次のような対句があります。お酒の好きな方、女性に溺れそうな方は、中国語で諷んじてみては如何でしょうか。

酒不醉人人自醉……………酒人を酔わさず 人自ら酔う
ジュウ ブ ズイレヌ レヌ ズーズイ
色不迷人人自迷……………色人を迷わさず 人自ら迷う
サー ブ ミーレヌ レヌ ズーミー

(樺島 康介:記)

樺島 康介 (財)海外職業訓練協会 国際アドバイザー:No.857 OVTA-China メンバー
--

【中国系法人の設立について】

上海においては、中国籍・中国系の2名で法人が簡単に設立できます。この場合、資本金「50 万元～100 万元」を用意する必要ありません。なぜならば、設立を支援してくれる所在地の「法人登録」役所が法人を誘致しているため、『仮』の形で資本金を銀行に振り込んで、全額を引き出した後で、設立を依頼した人に会社印等の印鑑を渡すからです。資本金を振り込んだら、資本金の証明書を発行させて、直ちに全額を引き出した「見せ金」になりますが、法人設立を完了させます。

法人を設立するまでの費用と毎年の法人維持費が「法人登録」役所の収入になります。現在では、多くの法人が設立されている区:青浦区では、上記のような法人設立を断っていると言われています。故に、上海の他の郊外区では、資本金「0:ゼロ」で法人を設立できます。

この法人の決算書を確認すると「資産」か「負債」のどこかに資本金額が隠されている状況になります。

(F 記)

【IT 申告 or インターネット申告】

日本では会計ソフトから、決算終了後に連動して申告書を作成して、直接、税務署へ申告できます。

中国で良く「IT 申告」と訳されているシステムは、「インターネット申告」かもしれませんが、注意してください。

会計ソフトでB/S、P/Lを作成して、その数字をメモして、「インターネット申告」用の別ソフトの入力画面で、上記の数字を手入力して、そして税務署へ申告します。このタイプを「IT 申告」と思っている中国現地法人が日系でも多数有ります。「インターネット申告」のソフト代は「20～50 元」程度です。

《対応》

- * インターネット申告でしたら、その後で申告書を印刷して、保管してください。
- * 決算書でも、個人所得税でも「インターネット申告」は可能です。もちろん、還付申請すれば、個人所得税の『2%』が還付されます。中国は合理的になっています。

(F 記)

【日本語と中国語の「同形異義語」 ③】

八. 我慢……「我慢(ウォーマヌ)」: 私には遅い

日本語の「我慢」は「辛抱する」「耐え忍ぶ」の意味ですが、そもそも「我慢」は仏教用語「七慢」の一つで、「自我を通して他を侮る」の意味で、「高慢」や「傲慢」と同義語であり、あまりよい意味には使われていませんでした。それが時代とともに変化して、我が強い、負けん気が強い、頑張るが転じて「辛抱する」になったと言われています。

日本語の「我慢」は中国語で「忍耐(レヌナイ)」、「忍受(レヌショウ)」、「容忍(ヨンレヌ)」、「自制(ズージー)」、「原諒(ユアヌリアン)」といます。更に「将就(ジャンジュウ)」という言葉があり、次のように使われます。

「请将就着住吧」=「我慢して住んでください」

「冷是冷、還可以将就」=「寒いことは寒いですが、まだ何とか我慢出来る」

「将就不下去」=「これ以上我慢しきれない」

さて、中国語の「慢(マヌ)」には(遅い、ゆっくり、遅れさせる)の他に、仏教用語で使う(侮る、驕る、怠ける)などの意味もありますが、現代中国語の「我慢」には(私は遅い)の意味しかありません。

「慢」を使った例をいくつか挙げると次のようなものがあります。

「慢車(マヌチャー) (鈍行、反対語の急行は「快車」)

「慢鏡頭(マヌ ジントウ) (スローモーション)

「請慢走(チン マヌゾウ) (お客を見送る言葉として、お気をつけてください)

「慢慢児(マヌマール) (ゆっくりと、急がずに)

また「慢」(侮る、驕る、怠ける)などを使った言葉には「高慢(ガオマヌ)」、

「傲慢(アオマヌ)」、「怠慢(ダイマヌ)」などがあり、日本語と同じ意味です。

中国語の早口言葉に次のような「慢」を使ったものがあります。

媽媽 騎馬, 馬 慢, 媽媽 罵 馬, 馬 罵 媽媽 嗎?

マー マ チーマー、 マー マヌ、 マー マ マー マー、 マー マー マー マ マ?

(母さんが馬に乗る、馬が遅い、母さんが馬を罵る、馬は母さんを罵りますか)

九. 一分……「一分(イフェヌ)」: 貨幣の単位や時間の単位

最近「武士の一分」という時代劇映画が上映され、SMAPのメンバー木村拓哉が主演ということもあって好評を博しています。藤澤周平原作の時代劇三部作「たそがれ清兵衛」、「隠し剣 鬼の爪」に続く最終作で、いずれも山田洋次監督の作品です。この映画の題名で「一分(いちぶん)」という読み方とその意味を初めて知った人は少なくないと思います。

その「一分」は(一身の面目)の意味で、「男の一分が立たぬ」のように使います。今では同義語の面目、体面や中国語が語源の面子(めんつ)などが一般的に使われます。

さて、この日本語の「一分(いちぶん)」を中国語では「面子(ミエヌズ)」、「臉面(リエヌミエヌ)」、「体面(ティーミエヌ)」と使います。それらを使った例文は次の通りです。

「愛面子(アイ ミエヌズ)」(面子を重んじる)

「給他留面子(ゲイ ター リュウ ミエヌズ)」(彼の顔をつぶさない)

「看我的臉面(カヌ ウォーダ リエヌミエヌ)」(私の顔に免じて)

日本語の「一分」には(いちぶ)と言う読み方もあります。その場合、全体の十分の一、一割の十分の一、長さ一寸の十分の一、目方一両の十分の一、江戸時代の金貨・銀貨の単位などであり、「一分一厘」、「一分の隙もない」、「一分の狂いもない」、「1割1分の配当」、「1尺2寸1分」などのように使われます。また「分が悪い」や「分がある」などの使い方もあります。

中国語の「一分」の「分(フェヌ)」には、動詞で「分ける」、「分配する」、「区別する」などの意味があり、数詞や名詞では通貨の単位、時間の単位、角度の単位、成績の点数などです。

また中国語の四字熟語に「分」を使った「安分守己(アヌフェヌ ショウジー)」があります。これは「己(おのれ)の本分を守る」という意味です。

十. 検討……「検討(ジェヌタオ)」: 反省、自己批判

日本語の「検討」は辞書によると(物事をいろいろの面からよく調べ、それでいいかどうか考えること)とあります。「本件は持ち帰りましてよく検討いたします」とか「真剣に検討しましたが、誠に残念ですがお受けできません」とか、これらは中国側との交渉で日本人がよく使う言葉です。もしこの「検討」を中国語に翻訳するとき、そのまま「検討」を使うと大変な誤解を招くことになります。

何故なら中国語の「検討」には「個人または団体の思想上・活動上の欠点や過ちを調べて、その原因を追究して(反省する)とか(自己批判をする)」との意味があり、自分の非を認めることになるからです。

中国では職場でも学校のクラスでもよく大衆討議が行われ、その結果過ちがあれば、そのグループや個人が「検討書」(反省書)を書かされることになります。「検討」という言葉は中国人にとってそれほど重々しく感じられる言葉です。

従って、日本側が使った「検討」という単語を、通訳の力量不足でそのまま「検討」を使ってしまうと、やはり日本側に問題があって反省しているのだと中国側が誤解すること必定です。

それでは日本語の「検討」に該当する中国語は、「研究(イエヌジュウ)」、「探討(タヌタオ)」、「研討(イエヌタオ)」、「商討(シャンタオ)」などですが、一般的に使われるのは「研究」です。上の例文は「关于这件事我们拿回去研究一下吧」、「虽然进行了认真的研究,但很遗憾我们接受不了」のような訳文になります。

むかし商談の過程で中国側から「我們研究研究吧」と言われると、「研(イエヌ)」は「煙(イエヌ)」(煙草煙 たばこ)、「究(ジュウ)」は「酒(ジュウ)」(酒)と同音(四声は違うが)であることから、冗談半分に交渉事をスムーズに進めるために、「たばこ」と「酒」の差し入れを中国側から催促されていると解釈したものです。

ついでに中国語の「検討」と「検査」の違いについて説明しておきましょう。「検討」は自己批判を伴い、通常誤りが発見されてから行うのに対して、「検査」は欠点や誤りがあるかどうか、またあるとすればどこにあるかをチェックすることで、自分ではなく他人或いは事柄に対して行います。また「検討」の対象は思想、仕事、生活における問題ですが、「検査」はそれ以外にも身体、衛生、機械、物価などの状況および品物の品質や数量など幅広く使われます。

(樺島 康介:記)

樺島 康介 (財)海外職業訓練協会 国際アドバイザー:No.857 OVTA-China メンバー
--

【発生主義で、発票主義です】

4月と5月に開催したOVTA「中国会計」セミナーで参加者の方からの質問になります。ここでは、詳細に説明いたします。

中国式会計では、日本会計よりも厳しい「発票≒領収書」を主体とした会計基準を採用しています。

例えば、支払後に**税務署が発行した「発票」**を受け取り、その発票に基づいて伝票を作成します。帳票書類としての発票を伝票裏に貼付して、保管する事になっています。

日系の中国現地法人でも、多くの会計担当者から「発票が無いので、経費や仕入の計上は出来ません」と回答されていました。つまり、『**発票主義＝現金主義**』だと判断されているからです。しかし、発票主義でも『**発生主義**』の会計基準で計上できます。

発生主義への変更

《買掛金》

- ① 商品を受領された時 : 「商品 / 買掛金」にして、納品書等を伝票に貼付する
- ② 請求書が届く
 - * 中国系法人からだと請求書に「発票」が添付される場合や納品書に請求書・発票が同封される場合も有ります
- ③ 支払時 : 「買掛金 / 銀行預金」で小切手の控を伝票に貼付する
- ④ **受取った「発票」を①の伝票に貼付する**

《売掛金》

- ① 商品を取引先に出荷した時 : 「売掛金 / 売上高」にして、出荷書等を伝票に貼付する
- ② 請求書を作成して、送る
- ③ 入金時 : 「銀行預金 / 売掛金」として、銀行の書類で入金を確認して、その書類を伝票に貼付する
- ④ 「発票」を作成して、送る
- ⑤ **発票の控を①の伝票に貼付する**

◎ 発票は、『**領収書**』と『**納品書**』を兼用しています

◎ 増値税の発票だと還付請求が加わり、増値税を計上します

◎ 高額支払だと「小切手」を使うようにと CPA・税務署から通達されました

以上のような手順ならば、発票主義で、発生主義になり、「企業会計準則」どおりになります。

2006 年の中華人民共和国財政部設定「企業会計準則：基本準則」から、第 1 章「総則」の第 9 条に【発生主義】での会計処理を謳っています。

- 取引先から「発票」が不必要なら、10%OFF にしますとの提案に同意したら『脱税』になります
- 発票を作成できない個人等からの購入だと、税務署へ増値税や営業税等を納付した後に、税務署が発票を作成してくれるかもしれません（家賃・昼食代等）
- 他にも、発票を発行できない場合でも、中国ではコンサルタントを間にに入れて、顧問契約とすれば発票を受取れます

(F 記)
「OVTA-China メンバー」

AOI
Group
経営編

上海便り 2007年7月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

【「CRH」は中国製？ 日本製？】

CRH: Chinese Railway High-speed

07年新春から、中国:華東地区の「上海⇄南京」と「上海⇄杭州」の間に日本の新幹線「はやて」型:CRH2 が運転開始になりました。偶然にも、台湾の「台北⇄高雄」の間でもTHRと言う日本型新幹線が運行されました。そして、中国:東北地区ではフランス製らしい CRH5 で、中国:華南地区ではカナダ製らしい CRH1 が運行されています。

CRH2 は中国のマスコミでは、「中国製:子弾頭列車」となっていますが、正確には日本の新幹線をモデルにして、南京で約 70%を製造している「日本製:30%」とも言える列車です。中国製と強く訴える理由は、ご存知のように「反日本」のためと思われる、もし日本製を強く打ち出したりしたら、どのような動きが出るか予想できるからです。乗車拒否や運行妨害も考えられますし、05年の上海日本領事館のように列車が破壊されるかもしれません。

でも、この「中国製 CRH2」が重大事故やトラブルを起こした場合は、過去の事例から予想すると一転して『日本製』新幹線だと大PRが開始されるでしょう。

台湾では、オペレーションがフランス形式で、列車は日本製となっていたためか、やはり初期トラブルを数多く抱えています。本格的な運行までには、更に数ヶ月間を必要としました。

中国大陸では、07/2月の日経新聞からですと大幹線である「北京⇄上海」と「北京⇄広州」の間には、中国の技術で高速鉄道を採用する。しかし、「大連⇄ハルビン」の間には、日本の新幹線を導入したいとの交渉があったらしいです。理由として「大連⇄ハルビン」の間では、冬季には零下30~40度になるため、日本の技術に頼ったと伝えられています。

なお、上海~杭州の間に、ドイツ製のリニアモーターカー建設に決まりましたと何度も報道されましたが、未だに未決定のようです。逆にドイツ人からは、ドイツの技術だけが提供させられて利益が少ないのではないかとの苦情も出ています。ドイツ製リニアモーターカーは、建設費が高額なうえに、磁気での浮上が約1cmのため、不安視されています。更に、06年度にドイツ国内で重大事故も起こしています。

(上海では、リニアモーターカーが火を噴き、一時運行も中止されました)

中国運輸局の発表から;

これまでに中国は鉄道的高速化に必要な車体・けん引装置・制御装置や運行システムなど 9 項目の革新技術を把握し、それにかかわる空調やパンタグラフなどの技術 10 項目についてもほぼ掌握した。

そして、時速 300 キロ運転が可能な電車を 2007 年末までに完成する見込みだ。

上海の地下鉄では

上海では、地下鉄と軽軌鉄道が運行しています。数年前と違って朝夕では、一部で東京並みのラッシュアワーになっています。プラットホームを事前に 8 両用に長めに作ってありましたので、上海地下鉄会社は車両を 6 両編成から 8 両編成に増やそうと考えて、05 年にドイツ:シーメンス社へ追加注文しました。

ところが、まだ地下鉄が開通してから約 7~8 年ですが、上海で使用しているシーメンス製の車両は、もう古いタイプのため製造を中止していたと判りました。そのため地下鉄では「8 車両」の編成もならず、現在でも 6 両編成で運転しています。中国系法人でも、ヤラレルとの事でした。(07 年度からは車両が長くなりました)

【ヤラレル】の意味を説明しますと、≡「騙される」「護摩かされる」「裏切られる」「猫糞される」等の被害に遭うことを意味します。

もし、車両メーカーがドイツ:シーメンス社でなくて「日系法人」だったら、どのような凄い反応が沸き起こるでしょうか？

日本が列車の中古品や不良品を売って、中国・中国人を騙して、迷惑を起こしていると騒がれるでしょう。

(F 記)

今春から運行された、中国 CRH ではビックリするような問題が多数発生しております。

それは、列車内の備品が無くなってしまふ事です。洗面所の蛇口までも消えていますし、取り外しできる備品・器具でかなりの数を補充しなければならない状況です。

列車事故とは関係しないでしょうが、『洗面所の蛇口』を取外す作業の手間や時間を考えると皮肉でなくても【**ご苦労さま**】と一言、言いたいぐらいです。

【中国経営関連の参考書籍 ①】

日本でも中国の経営や会計、更に治安や環境に関する情報が、TV とインターネットそして、書籍でも数多く見られるようになりました。そこで、日本と中国の考え方や習慣等の相違による企業経営上のトラブルや誤解を回避するために、参考になるとと思われる書籍をご紹介します。

- ① 「中国の日系企業が直面した問題と対処事例」(財)海外職業訓練協会(OVTA)編集 ¥1,575

中国に駐在していた、駐在中の日本人等からの経験談として、約 200 社の困難事例・対処・教訓が記載されています。

「http://www.ovta.or.jp/info/investigation/chn_casebook/index.html」でも PDF×約 300 を読めます。

- ② 「ミスターチャイナ」ティム・クリソルド ; 日本経済新聞社 ¥1,800

英国人コンサルタントと米国人ウォール街出身の投資家が、1990 年代に中国で行った投資実態や経営環境に関してのレポートと言えます。

《主な内容》

- どこかで曲がり角を間違えた古い文化が、必死で遅れを取り戻そうとしている
- 言いなりにならず、調べ、質問し、おだて、説得した
- 悪意は無い。悪習になっていて、止められないだけだ
- 未来図があるわけではなく、目の前しか見ていない
- 未来に不安があるので、掴めるうちに全て掴んでしまう
- ルールや規則に全く縛られず、芝居じみた事が好きで、目先の利益だけを追う

- ③ 「中国ビジネスで失敗する前に読む本」黒岩健一郎+他3名 ダイヤモンド社 ¥1,500

これから、中国企業と取引を開始するとか、中国に駐在が決まった方へ、中国の一般論としてはお勧めです。

《主な内容》

《中国ビジネスで失敗しないための10ヶ条》

- 交渉テクニック
 - ① 中国側の言う事を直ぐに信じるな！
；「**沒有問題**＝問題なし」は「**有問題**＝問題あり」
 - ② 交渉は急ぐな！
 - ③ 法令を調べておけ！
；「中国の法令で不可能です」は、多くの場合【**嘘**】です。「その法令を見せてください」と切り返してください
 - ④ 最後まで気を抜くな
- 輸出入
 - ⑤ 不良品を輸入しない仕組みを作れ！
 - ⑥ 安全な代金回収のできる仕組みを作れ！
；中国人が代金を支払うのは、『**支払う事が、自分の利益に繋がるから**』です
- 直接投資
 - ⑦ 中国をバラ色と思うな！
 - ⑧ 中国人を信用せよ！
；**一緒にやっけて行く方が利益になるならば、信用に値する**
 - ⑨ 独資でヤレ！
 - ⑩ 地方政府の役人と利害一致を図れ！

④ 「明日から中国で社長をやってください」五十嵐 らん ;(株)エクснаレッジ ¥1,500
日本女性が、中国雲南省で蘭栽培の社長として、経験した出来事を自分のブログに掲載した書籍になります。日本女性も逞しくなりました。

ただ、生々しい過ぎる情報のためか、中国国内から彼女のブログへのアクセスが不可能とされています。中国駐在中の方、注意しながら試してください。筆者は、他にも書籍を出していますので、そちらもお楽しみください。

《主な内容》

- 競争相手に対しては、「追落」の材料を見つけると攻撃を開始
- 自分の生活範囲はきれいに、公共の場所は汚れている
- 純粋培養の中国人は、**根拠の無い自信の塊で、自分たちを優秀だと思**
- **言われたとおりに行うのは「無能」の証明**と思っている
- 自分を売りつけるため「大げさな主張」
- 嘘を認めず、己の正しさを主張するが、日本人慣れすると謝って反省のフリをする
- 「言うのはタダ」「言わなければ損」と考える傾向
- 目先の利益、目先のお金が重要
- 社員でも、会社の経費でサイドビジネスする人は多い
- 儲けられる時に儲ける。時間を掛けて技術を取得するよりも**エッセンスだけを知ったら、自分で稼ごうと独立したがる**
- **トップになると給与の上限は無く、自分のやりたい放題にできる。故に、人を使う**

立場「総経理」になりたがる

- 日系製造業である程度の技術を学んで、独立するパターンは非常に多い。そして、手っ取り早く稼ぐため、コピー商品を安く売る
- 信じるのは「お金」「家族」だけ

- 言論の自由は無いので、日中間で過去を乗り越えて理解しあうのが難しい
- 不潔、不衛生、公共精神ナシの無法地帯が存在する
- 中国人の愛すべき点;「大らかさ」「大ざっぱ」「大げささ」を理解しよう

≪日本本社が理解しなければならない:中国経営事情×4≫

- 意志決定・変化が速い
- 騙しあい、嘘が日常化
- 貧富の大きな格差
- 日本の常識や善意が通じない

- 日本流の「こだわり」「細やかな管理」を理解できないので、中国でも感性勝負は十分通用する

今月では中国・中国人に対する苦情やお小言が、主になっています。来月号では日本人駐在者へのお小言も多数あります。

(F 記)

【中国経営関連の参考書籍 ②】

今月は、より詳細に、具体的に書かれている書籍をご紹介します

- ① 「今、あなたが中国行きを命じられたら ; 失敗事例から学ぶ中国ビジネス」高田 拓
(株)ビーケイシー ¥1,800

中国に駐在していた筆者が、「なるほど」「アアそうか」と思わせる内容です。反日デモの政治的な背景から、身近な出来事まで紹介しています。

中国に駐在している日本人**経営者**には必需品ですから、中国へ出張予定の方は、是非お土産としてお持ちください。但し、駐在日本人への多数の苦情・お小言も有りますので、素直に読んでください。

- ▶ 日本人や日系企業は、他国籍人や他国企業と比較すると中国において、眼に見えない【コスト】を払う事が常にある
 - ・日本に関して過激な行動を起こしても取締りは軽い
 - ・中国人は、**自分に利害が及ぶと敏感になる**

- ▶ 中国や中国人の分析
 - ・価値判断は「①日本原産」、「②日本企業の第3国での生産品」、「③中国現地生産」の順位がある
 - ・量販店・スーパーでの荒利率は「10%」以下が普通です
 - ・模造品ならば、情報入手後「3ヶ月」で発売が可能です
 - ・**罰を認めたら、罪がある**と考えている
 - ・将来よりも【今】実現できる利益を重視する
 - ・家族を大切にする
 - ・**自己投資を惜しまない**。社会人でも勉強を続け、上昇志向が極めて強い
 - ・自己啓発意欲は強く、本当に理解すれば社員は定着する
 - ・「資格は金だ」と拝金主義が強い
 - ・世間的に評価されている商品を欲しがる
 - ・中国人が部下を評価する場合、上司と部下の人間関係で決まり、悪者になるのを避ける傾向がある
 - ・自分よりも能力が高い者や将来のライバルで地位を脅かす人を排除する
 - ・評価が正しくないと優秀な社員から辞めて行く

- ビジネス上のポイント
 - ・ビジネス・パーソンとしての**意識・訓練が不足**している
 - ・「**報喜不報憂**」の伝統;良い事は報告するが、悪い事は報告しない!
 - ・中国人を納得させる事が、非常に重要です
 - ・正しい評価とそれに見合う処遇がない企業では、優秀な社員が退職して、出来の悪い社員が居座る
 - ・社員の不正に対しては『**档案**』が解決に有効です。本当の退職理由を書かれたら、今後はどこでも採用されない
;『档案』とは、内申書兼戸籍謄本のような物で、本人の出自来歴・学歴・共産党での賞罰等が記入されている。本人も見るとは出来ない
 - ・PL 紛争の被告は、約 60%が日系企業です
 - ・自分の起因する**クレーム情報は、絶対に上司に知らせない**
 - ・人事評価は、身内や仲間優先で、自分よりも優秀で能力があり、地位を脅かす恐れのある人を弾き飛ばす
 - ・**公私の区分は甘い**
 - ・物流管理で「定番」概念がなく、ダレも知らなかった
 - ・部門の問題は、上層部に上がってこない
 - ・真面目に働く人に光を当てれば、輝く
 - ・報告/連絡/相談の習慣はない

- 《未債権の回収》
 - ・担当者から原因を正確に報告してこない。特に、担当者のミスの場合は、まず報告はない
 - ・トップが明確な強い姿勢を取引先に示さなければ支払われない
 - ・支払に関して、**発票の有無は証拠にならない**
 - ・銀行振込の利点は、債権問題だけでなく、社員の不正防止にもなる
 - ・銀行振込でも、振込取消が可能だから、自社口座への入金を確認する
 - ・小切手や手形の不渡に対して、罰則はない。少額罰金になる
 - ・会計処理と税務処理が違っている。税法での資産評価損の適用が厳格である
 - * 支票「地域限定小切手」は、発行された同じ省や市でしか換金できない
 - * 匯票は、:全国で通用する小切手です
 - ◎ 公安等の捜査費用は、会社負担になる
 - ◎ 裁判制度は「四級二審」で、上訴は 1 回だけ

- 契約関連
 - ・売買契約書には、販売よりも回収関連の内容を優先する
 - ・不動産の抵当権は、速やかに、公的に登記しなければ、無価値になる
 - ・契約書での留意点×15 点

- 部下の育成
 - ・後継者を指名して委譲する権限を明確にして、OJT で育成する

- ・マネージメント能力を鍛える
 - ・不正は処分する
 - ・現場指揮官に大きな権限を与えて、昇給&減給を行う
- 駐在日本人に対して
- ・郷に入らば、郷に従え
 - ・公私混同は引率して、自戒する
 - ・赤字ならば、**日本人の手当からカットする**
 - ・結論は1週間以内に出して、白黒を言い渡す
 - ・マニュアルや標準応酬話法を作ったら、テストを行ない、等級等を決めて**給与に反映させる**
 - ・事務所や工場の使用ルールを決めて、順守させる。モチロン**給与に反映させる**
 - ・報告/連絡/相談の習慣を付けるため、確認する
 - ・不良品や不正に関しては、記録を残して証拠とする
 - ・人材育成で、日本人の3倍の時間や労力を必要とするのは当たり前です
 - ・顧客と同じ目線で、使いやすく、ニーズに合う事が、重要な評価基準だと理解させる
 - ・OJTを通してシッカリと教えれば、成長は早い。自覚を促して、責任と権限を与える
 - ・「優秀な人材がいない」と嘆く前に、**指導できない日本人**が多い
 - ・「期限を守らない」と嘆く前に、守らせていないので、容認しているからダメも守らない
 - ・縁故や知合いの採用は絶対避ける
 - ・合弁先の社員を無条件で受け入れない
 - ・高級管理職は人事協定に明確に期間を定める
 - ・日系企業の定着率が悪い理由
 - ；自己実現が無い(学ぶ物が無い)、低い給与&処遇、公平感の欠如
 - ・通訳者が、通訳できるのは『**50%**』である。；通訳能力のためか？ 意思のためか？
 - ・中国に赴任してくる日本人の「質」「品性」が低下している
- 中国とは、『**旗は共産主義、方針は社会主義、やる事は自由主義、地べたは封建主義**』

感想としては、日本本社や駐在している日本人に対して中国に合った『**仕組み作り**』を要求しています。

人事面ですが、【**報/連/相**】が嫌いならば、実施した社員を昇給・昇格して、不実施の社員を減給・降格する。【**部下育成**】でも同じように、部下のレベルアップ等が昇給と減給の基準にすれば、優秀な社員ほど日本人以上に【**報/連/相**】【**部下育成**】を行っていました。本当に単純な思考で、難しく考える必要は有りません。

小切手には「**現金小切手**」と「**振込専用小切手**」の2種類がありました。

(F 記)

【中国の発票について】

中国で渡されていた発票は「**≠領収書**」ではなかった？

日本人は、発票を「領収書」と訳していますが、現実には「領収書・納品書・請求書」と判断していました。ところが、中国の判例では「発票の有無は、【**支払済**】の証拠にならない」となっています。

中国の期末監査で「現金や現金小切手での高額支払は良くないので、振込に変えてください」と多数のCPAからアドバイスを受けていました。その理由がやっと理解できました。

法律的な意見を聞きたいため、中国の弁護士資格を有し、日本国外事弁護士資格も有している「程 甦」さんへ質問したところ、下記のような回答になりました。

中国において、「発票」というものは必ず支払う証明とはいえません。「発票」の右側の上に、いくつかの支払方式が書いてあります。

例えば、現金、小切手、振込など、もし発票を発行する時、発票の支払で「現金」を選んだ場合、特別な説明がなければ、これは相手側が現金を支払われているので、発票を出した事を意味して、この場合再度支払う必要がありません。

もし発票を発行する時、発票の支払で「振込」を選んだ場合、発票を持っていても、双方が支払の有無について一致しないと、支払証明(法人だと振込用紙等)が必要になります。もし証明が不可能だと再度支払わなければなりません。

詳細は、CPA や税務署等にも必ず確認してください。

(F 記)

どうあん
【档案とは】

07/9月号の「档案」について、お馴染みの「樺島」さんから更なる情報を頂きましたので、ご参考にしてください。

档案という言葉は、本来保存書類や古文書という意味で使われていたが、1921年に中国共産党が創立してから、共産党員と軍隊を対象にした「身上調書」として使われるようになり、中国解放後にその対象が一般大衆にまで拡大された。

ただ日本との違いは、この人事档案は、役所や企業だけに止まらず、学校に入学してから死亡するまで、一生ついて回ることです。そして、我々外国人も例外ではなく、駐在者は勿論のこと、ビザを取得した出張者も公安当局のファイルの対象となっている。

例えば、私の場合は、1964年秋季広州交易会に参加してから、2000年に退職するまで、北京市公安局外事処に「档案」と印刷された大きな茶封筒に資料一式が保存されているようだ。(07/2月号を参照してください)

一時期マイクロフィルム化へ向かったが、現在ではIT化が進み、公安当局の責任者ならPCから検索できると聞いている。

勿論本人には一切公開されていないが、中国人の場合、本人の家庭成分(家庭の政治的背景)、出身階級、学業成績、賞罰、前科、政治に対する上司の評価、政治的処分、本人に対する投書・密告とその処理、入隊・入団・入党に関する申請書類と許可・不許可、本人を取り巻く環境(特に海外関係)、海外出張や駐在記録などに関する資料が保存されている。このうち、家庭成分と出身階級は文化大革命の反省から、現在は削除されていると聞いているが、真偽の程はわからない??

われわれ外国人の档案に何が書き込まれ保存されているのか想像の域をでないが、ビザ申請時の書類一式(健康診断書も含む)に始まり、駐在許可取得のために企業が提出した経歴書、本人の政治的背景や中国での政治的行動(例えば中国の政治活動家との接触など)、本人に関連した中国での民事事件(本人が引き起こした刑事事件なら入国できない)、本人に関する投書・密告書類などだろう。

外資系企業で働く中国人従業員の「档案」を、我々外国人は閲覧もできず、通常

その企業の共産党組織の責任者か工会(労働組合)が保管している。独資企業の場合、自社で保存も閲覧もできないので、その企業所在地の労働局や人事局に保管料を支払って保管してもらうことになっている。

【感想】 ;中国は面白い国ですね！

【無錫の会計事情】

8月に中国:華東地区の無錫市に行ってきました。その時の会計事情についてです。

高レベルと思われるCPA事務所の方へ、無錫における中国会計の現状を質問しました。

① 中国財政部が発行している『企業会計準則』から、中国の会計は【**発生主義**】が原則となっているが、発生主義での計上基準としての【貼付する書類・伝票】は何か？

=「**收据**」とか、納品書を貼付すれば、会計上ではOKです。
もちろん、税務上では『**發票**』が必要になります。彼らは『企業会計準則』に関しても知識を有していました。

② 「**生産経営開始日**」の意味は何か？

=「**原材料:資産**」や「**商品:資産**」を購入・納品された時が、実地的な活動開始と判断します。会計上でも、税務上でも同じような処理になり、その日以後は、経費もP/Lの勘定科目で計上します。

《結論》

無錫の会計レベルは、「企業会計準則」に従っていて国際会計でした。

CPA事務所でも格差が有るでしょうが、上海・杭州・広州と比較しても、日系企業には納得できる意見でした。

(株)葵 BC が CPA 事務所や税務局に質問したケースから、「生産経営開始」の判断が無錫では「会計上・税務上」で実際の活動開始でした。それ以外のケースだと「会計上は OK で、税務上は最初の發票作成日」と返事されたのが、広州・杭州・上海・蘇州・青島でした。

そして、「会計上でも、税務上でも【最初の發票作成日】として、それ以前は、全て『**開業費:資産**』で計上する」と返事されたのは上海でした。

会計面から判断すると「無錫」は、大変なお勧め場所になります。

(F記)

【中国と日本の個人所得税に関して】

総経理、あなたの所得税は大丈夫ですか？

今月は、日本本社が使用人技術者(雇用者)を中国子会社へ1年の大半(183日以上)を常勤として出向させ、中国子会社にその使用人技術者の給与負担をさせる場合の取り扱いについてになります。

(A) その駐在している技術者は、日本において「非居住者」となり、中国において「居住者」となる。したがって法律上は中国の国内源泉所得ということで、中国子会社の損金扱いとなります。

中国子会社で支給される給与と日本本社で支給される給与に分けられていても、すべて中国国内源泉所得として中国の給与所得課税が行われ、日本においては、課税関係が無となります。

(B) 日本の法人税法上の取り扱いは、日本本社がその駐在技術者の給与の一部を日本にて支給した場合、その支給が合理的なものであるならば、その給与較差補填金は損金として認められることとなっています。(法人税基本通達9-②-35)

(C) その給与較差補填金支給が合理的であるかどうかの判定は、概ね次の要件を満たしていることが条件となると思われます。

- * 負担割合は「留守宅手当」程度の額を支給する場合
- * 中国子会社がその給与支払に耐えうる利益を上げることができず、やむをえず日本本社がその出向技術者に賞与を支給する場合
- * 中国子会社が創業したばかりで、赤字である場合

(D) 中国においては合理的範囲において実費精算非課税給与が認められているので、駐在技術者はこの制度を利用すると有利となります。

- ① 住居家賃
- ② 出張手当
- ③ 食事支給
- ④ 語学訓練費

- ⑤ 子女教育費
- ⑥ 引越費用
- ⑦ ホームリーブ旅費 : 日本に一時的な帰国する場合の航空券等

(E)なお駐在員が総経理等の高級管理職で、日本本社の役員である場合は、一般の従業員の取り扱いとは異なります。

現状中国における総経理としての給与が相当額として認定されれば、原則どおり申告納税し、日本における役員報酬については日本における非居住者として日本側にて「20%」源泉課税で完結させる方式がとられているようです。

《結論》

中国への出向社員の給与に関する取り扱いは、概ね以上のようになっています。

- ① 中国から日本本社への海外送金する場合、日本本社への外貨支払送金は中国子会社と正式な「技術・経営指導契約」「ロイヤリティー契約」「商標使用の契約」等を交わし、これを対外貿易委員会・外貨管理局等の関係官庁にて正式認可を受け、源泉税等を納付していれば海外送金が可能となります。なお、外貨管理局には次のような書類が必要となります。

- * 申請書
- * 契約書原本
- * インボイス
- * 技術輸入契約データ表
- * 税務証憑
- * 対外貿易委員会発行の技術導入および設備輸入契約書登録有効証書
- * 技術輸入許可証または技術契約登記証

- ② 日本本社で寄付金として、認定されないためには、中国子会社から給与較差補填金に見合う収入、即ち「技術・経営指導料」または「ロイヤリティー」収入を得ていれば、寄付金認定はされないものと思われます。

《詳細を各担当役所へ、必ず問合せてください》

(横田 昭夫:記)

【中国での体験談】

所が変われば、品も変わっています。

今年の10月中旬に、OVTA(財団法人海外職業訓練協会)より江蘇省の日系会社への海外OJT業務に派遣されました。

この時期には、江蘇省を含む華東地区でも短い秋を迎えています。空気も爽やで、中国で最良の季節になります。

その折、2つの庶民文化に接する機会がありましたので、ご紹介いたします。

「30歳のお祝い会」と「100日宴席」です。「30歳のお祝い」とは論語にある「三十而立(三ニシテ立ツ)」に由来し、全国的に行われる行事らしく、父母の愛に感謝し、親戚一同、ご老人から赤ちゃんまで出席してお祝いしています。

ご挨拶のあとは、お決まりの宴会、私も一族に加えていただいて、楽しい食事を満喫しました。丁度、あの本場:上海蟹のシーズンで、食事の間、主人やご両親と長老風の方々も順次席を回られて、乾杯々々の連続でした。一族のお祝いなので、基本的に会社の関係者は呼んでいないと言われ、これもまた「中国流の仕来り」らしいと思えました。

文化大革命では「批林批孔」運動で徹底的な弾圧を受けた論語・孔子様です。しかし、最近、拝金主義への反省からか、見直されているとも聞いていました。確かに、庶民の生活の中には、しっかり根付いていると感じた「30歳のお祝い会」でした。

次に、「100日宴席」とは、赤ちゃんの顔見世興行になります。この習慣は、江蘇省や浙江省周辺の習慣らしく、赤ちゃん主体のため昼間の食事会になります。

こちらは若夫婦が、主人役で会社関係者を多数招待していました。でも赤ちゃんの顔見世の儀式はなく、卓々で飲食しながら大きな声でおしゃべりし、めいめいが楽しい時間を過ごしていました。赤ちゃんの方は見ると、おばあちゃんにしっかりダッコされて、お休み中でした。

この会は一族の会というよりは、友人との交わりを重視する「関係」中心のもののように感じました。最近では廃れた日本での「お食い初め」に相当するのでしょうか。

この二つの経験から、中国の方々が『人の関係』そして『食』をいかに大切にしているか

を再度、実感できた気がします。

このような時、日本人は「お祝金は、いくら出そうか?」、「何を着て行こうか?」と頭を悩め、「言葉も通じないから呼んでくれなくても」等と考えるものですが、こんな弱気では異文化の方々と交流して、理解する事は難しいでしょう。

招待してくれた事は、友人として認めてくれたのだと素直に喜んで、参加して、相手の面子を立てるのだと認める事が重要になります。お祝いは気持ちであり、二義的であるように考えてください。それでもお祝金等を気にする方は、普段から相場情報を得ておけば良いでしょう。

着ていく物、これは普段着で充分です。ただ、若い女性は最近、衣服、化粧品への出費を惜しまない傾向があり、宴席が一層華やいで見えたのは、男性として楽しいものでした。

言葉の障壁から意思の疎通が不十分ですが、もう少しマシな会話が出来たらもっと楽しい一時が過ごせたに違いないと自らの能力不足を嘆いています。

そして、宴席の賑やかな雰囲気と中国の方々の明るい表情に発展する中国の若さと自信を感じた出来事でした。

(亀山 悟:記)

OVTA 国際アドバイザー;「OVTA-China メンバー」